OM SOLAR SYSTEM

自立運転型ハンドリング
操作説明書

⚠ 使用上の注意

ご使用前に本書をよくお読みいただき、内容を十分理解されてから正しくご使用ください。
読み終わったら本書はいつでもご覧いただけるところに大切に保管してください。

禁止

おこなってはいけない内容を告げるマークです。

感電

感電の恐れのある内容を告げるマークです。

分解禁止

分解してはいけない内容を告げるマークです。

注意

機器に損傷をあたえる恐れのあることを告げるマークです。

	濡れた手でリモコンの操作をしないでください。感電、故障の恐れがあります。
	洗剤やシンナーでリモコンを清掃しないでください。塗装面の劣化や感電、故障等の恐れがあります。清掃は、乾いた布等で拭きとる程度としてください。
	お客様自身では、分解、修理、改造はしないでください。ショート、感電、誤作動の恐れがあります。
	水をかけたり、物や体をぶつけないでください。故障、火災の原因になる恐れがあります。
	とがったものや硬いもので操作しないでください。穴が開いて故障の原因になります。
	小さなお子様には、一人で触らせないようにご注意してください。誤作動による事故や故障の原因となる恐れがあります。
	塗装や装飾をしないでください。故障、火災の原因になる恐れがあります。
	油煙や湯気をあてないようにしてください。故障の原因になる恐れがあります。
	冬季に季節モードを「夏」にしないでください。凍結によりお湯採りコイルが破損する恐れがあります。

自立運転型ハンドリングは、BL 認定（BL-bs 部品）対象製品です。BL 認定は、（財）ベターリビングにより今日の社会的要請への対応を先導する特徴を有するとして認定された住宅製品につけられるもので、「BL-bs 部品」（BL-bs：Better Living for better society）は BL 部品に加え、環境、住宅ストックの形成・活用、高齢者・障害者配慮、防犯性、より良い社会の実現などに寄与する部品に対して認定されます。

注意：BL 認定（BL-bs 部品）は、集熱パネル及び貯湯槽との組み合わせにより適用されます。本製品単体における認定ではありませんのでご注意ください。

本書の他に、タイマー付室内サーモスタットや貯湯槽などの各取扱説明書をご参照ください。

目次

太陽電池を用いないタイプを設置のお客様へ

自立運転型ハンドリングには太陽電池を用いるタイプと、用いないタイプがあります。
操作方法はどちらのタイプのハンドリングも同じです。本書はどちらにも適用できます。
本書には太陽電池の働きや仕様について説明している箇所があります。あらかじめご了承ください。

ＯＭソーラーのしくみ

ＯＭソーラーは、下記のような部位で構成されています。

ガラス付き集熱面
ガラスなし集熱面を通って
きた空気をさらに温めます。

太陽電池
晴れた日に、ハンドリングに
太陽光発電により電気を供給します。

ガラスなし集熱面
取り入れた空気を
太陽熱によって温めます。

集熱空気層
取り入れた外気がこの部分
を通ることで温められます。

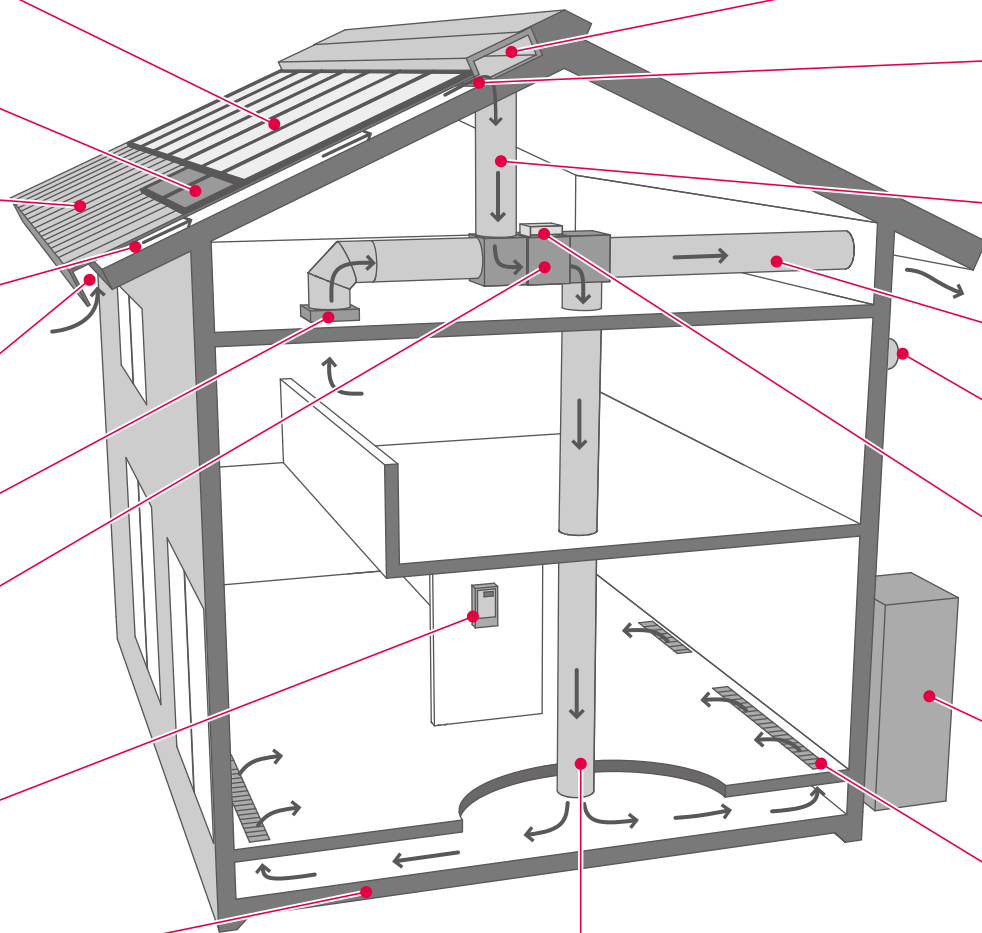
外気取り入れ口
外気の入口です。

室内循環口
室内空気の入口です。

ハンドリングボックス
OMソーラーの心臓部。
空気流れの切り替えや、
送風をします。

リモコン
OMソーラーの運転の設定や
表示をします。

蓄熱コンクリート
昼に床下へ送られた熱を蓄えて、
夜は自然に放熱します。

立ち下がりダクト
空気を床下へ 送るときの経路です。

※このイラストはモデル図であり、各部位の配置は実際には異なります。

棟ダクト
集熱面の空気を集めてハンドリングボックスに運びます。

棟温センサー
集熱面の棟近くの空気温度（棟温）を制御ユニットに伝えます。

お湯採り用高温センサー
集熱空気と貯湯槽内の水の温度差を測り、貯湯槽に伝えます。

排気ダクト
空気を室外へ排気するときの経路です。

外気温センサー
屋外の空気温度を制御ユニットに伝えます。

制御ユニット
リモコンや温度センサーからの信号を受けてハンドリングボックスを動かします。

貯湯槽
お湯採りしたお湯を貯めておくタンクです。

床吹き出し口
床下に送られた空気の出口です。

ハンドリングボックスのしくみ

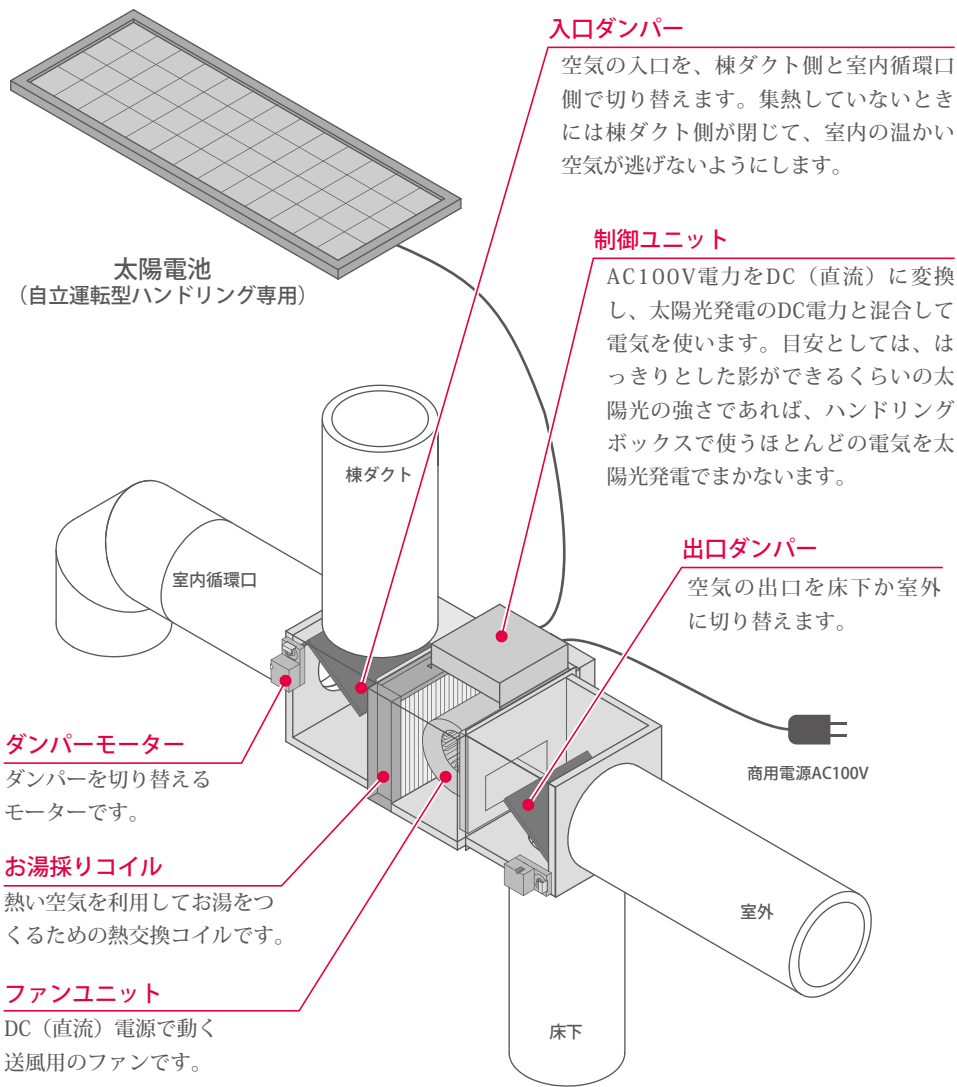
入口ダンパー
空気の入口を、棟ダクト側と室内循環口側で切り替えます。集熱していないときには棟ダクト側が閉じて、室内の温かい空気が逃げないようにします。

制御ユニット
AC100V電力をDC（直流）に変換し、太陽光発電のDC電力と混合して電気を使います。目安としては、はっきりとした影ができるくらいの太陽光の強さであれば、ハンドリングボックスで使うほとんどの電気を太陽光発電でまかないます。

出口ダンパー
空気の出口を床下か室外に切り替えます。

ダンパーモーター
ダンパーを切り替えるモーターです。

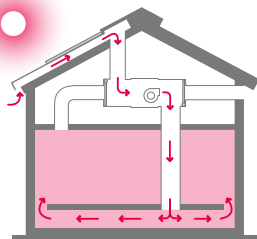
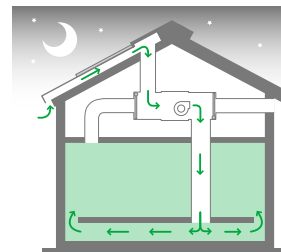
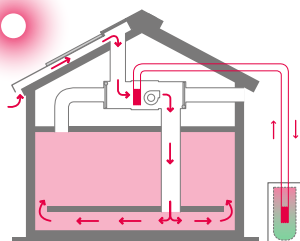
お湯採りコイル
熱い空気を利用してお湯をつくるための熱交換コイルです。

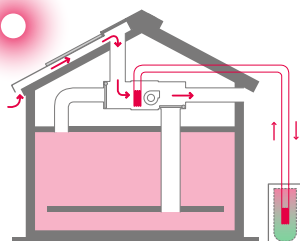
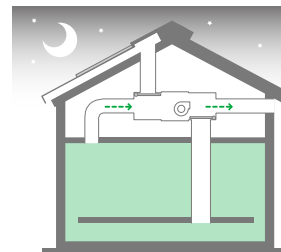
ファンユニット
DC（直流）電源で動く送風用のファンです。

リモコンの機能と名称

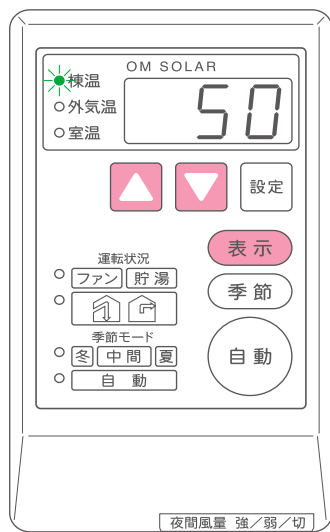
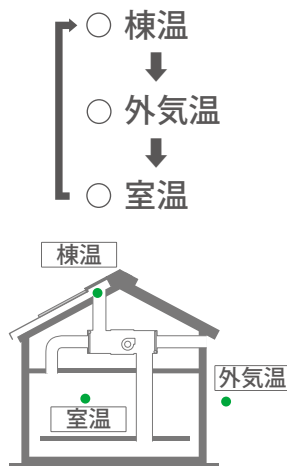
リモコンはＯＭソーラーを操作する機器です。
各部の名称と機能を紹介します。

ＯＭソーラーの運転パターン

ＯＭソーラーの運転パターンには、主に下記の種類があります。
リモコンのランプで、運転パターンを見分けることができます。

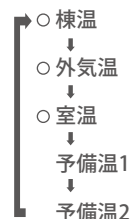
集熱取り込み

夏の夜の外気取り込み

集熱お湯採り

運転停止(全閉停止)

排気お湯採り

運転停止(換気停止)

温度表示の切り替え

リモコンの温度表示パネルで家の各点の温度を表示できます。
また、過去の最高温度や最低温度を見ることもできます。

温度表示の切り替え

表示 を押すと、「棟温」➡「外気温」➡「室温」の順番で温度表示が切り替わります。

予備温度の表示について

予備温度センサーを取り付けているときは、貯湯槽の温度などを表示できます。
予備温度は、２つまで表示できます。
予備温度を表示しているときは、「温度ランプ」は点灯しません。
※温度表示範囲は、－ 15 ～ 145℃

最高・最低温度の表示

これまでの「棟温」「外気温」「室温」の最高値・最低値を表示できます。

最高温度の表示手順

表示 を押して、表示させたい温度を選びます。
▲ を１秒押すと、「温度ランプ」がゆっくりと点滅し、過去の最高温度を表示します。 ▼ を押すと、通常の温度表示モードに戻ります。

最低温度の表示手順

表示 を押して、表示させたい温度を選びます。
▼ を１秒押すと、「温度ランプ」がゆっくりと点滅し、過去の最低温度を表示します。 ▲ を押すと、通常の温度表示モードに戻ります。

メモリーを消去する手順

消去したい最高・最低温度を表示中に、設定 を１秒押すと、メモリーが消去され、通常の温度表示に戻ります。消去は、表示している温度のみに有効です。

自動運転と手動運転

自立運転型ハンドリングは、自動運転と手動運転が選べます。
自動運転は、一年を通して、ＯＭソーラーの運転を機械におまかせできます。
手動運転は、ＯＭソーラーの運転を幅広く設定できます。

自動運転 詳しくは➡P10

OMソーラーには季節に応じた3つの季節モード（冬、中間、夏）が設けられています。
自動運転を選択すると、季節モード(冬、中間、夏)が自動で切り替わります。
※天候によっては、季節判断が適当でない場合があります。そのときは、手動運転を選択してください。

手動運転 詳しくは➡P12

手動運転を選択すると、季節モード（冬、中間、夏）を選択できます。
季節モード以外の設定項目も、幅広く変更できます。

自動運転と手動運転のちがい

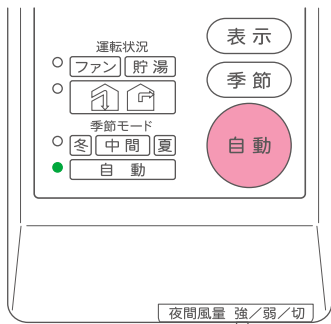
	季節モード	設定できる項目
自動運転	自動で判断	設定室温レベル
手動運転	手動で選択	季節モード 設定室温 設定棟温 目標棟温

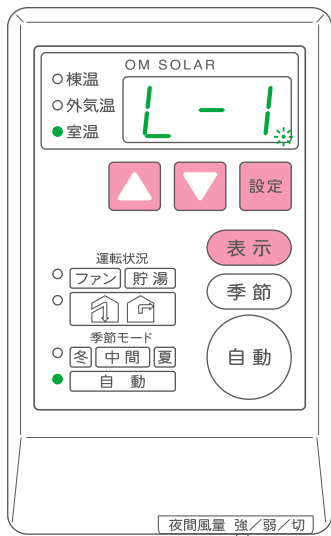
季節モードについて

季節モードは、「冬」「中間」「夏」の3種類があります。
それぞれ以下のようにOMソーラーを運転します。

「冬」.......日中は､「集熱取り込み」をします。室温が高いときは､「集熱お湯採り」をします。
「中間」....日中は､「集熱お湯採り」をします。室温が高いときは､「排気お湯採り」をします。
「夏」.......日中は､「排気お湯採り」をします。夜は、外気温が低いときに､「外気取り込み」をします。

自動運転の設定

自動運転を選択すると、一年を通して、ＯＭソーラーの運転を機械におまかせできます。
自動運転で設定できる項目は、「設定室温レベル」です。

自動運転にする

1 （自動）を押して「自動ランプ」を点灯させせます。

設定室温レベルの確認・変更

「設定室温レベル」は、±５段階あります。設定室温レベルをプラス側にすると、室温が高めになるように運転が切り替わります。マイナス側にすると､室温が低めになるように運転が切り替わります。

1 「自動ランプ」点灯時に、（表 示）を押して温度ランプの「室温」を点灯させせます。

2 ［設定］を押すと「ドット LED」がゆっくり点滅し、設定室温レベルを表示します。

3 設定値を変更したいときは ▲ か ▼ を押します。
「ドット LED」が速めに点滅し、変更モードになります。
▲ で高い方へ ▼ で低い方へ設定値を変更します。

4 ［設定］を押すと設定値が変更され、室温表示に戻ります。

※操作されない時間が 60 秒経過すると元の室温表示に戻ります。
※設定内容は、停電時でも保持されます。

自動運転の運転パターン

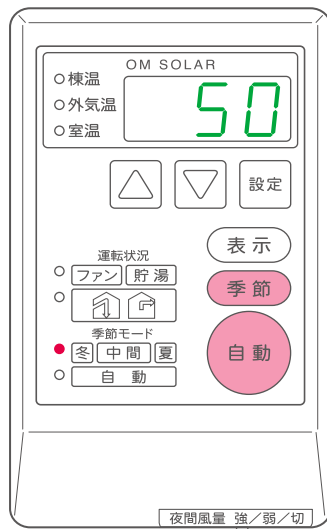
自動運転を選択したときは、下表のように運転が切り替わります。
「設定室温レベル」は、「冬」「中間」「夏」を通して共通です。

例：設定室温レベル「±0（初期値）」のときの運転パターン

設定室温レベル	冬 室温[℃]	冬 運転パターン	中間 室温[℃]	中間 運転パターン	夏(昼) 室温[℃]	夏(昼) 運転パターン	夏(夜) 室温[℃]	夏(夜) 運転パターン
+5	33		30.5		33		33	
+4	32	室温28℃以上で「排気お湯採り」	29	室温23℃以上で「排気お湯採り」	31	室温13℃以上で「排気お湯採り」	31	室温23℃以上で「外気取り込み」
+3	31		27.5		29		29	
+2	30		26		27		27	
+1	29		24.5		25		25	
±0	28		23		23		23	
−1	27		21.5		21	「自動換気」1時間に1回、約5分間室内排気	21	
−2	26	室温27℃以下で「集熱お湯採り」	20	室温22℃以下で「集熱お湯採り」	19		19	室温22℃以下で「運転停止」（換気停止）
−3	25		18.5		17		17	
−4	24		17		15		15	
−5	23		15.5		13	室温12℃以下で「集熱お湯採り」	13	
	〜		〜					
	18	室温17℃以下で「集熱取り込み」	13	室温12℃以下で「集熱取り込み」				
運転の開始条件	棟温30℃以上(固定)		棟温35℃以上(固定)		棟温40℃以上(固定)		・昼の運転が停止 ・棟温「室温+2℃以下」 ・外気温「室温-1℃以下」	
季節判断	日射のある朝方の外気温が13℃以下		日射のある朝方の外気温が14℃〜20℃		日射のある朝方の外気温が21℃以上			

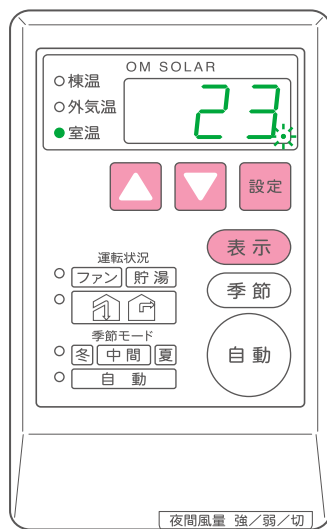
※1　運転停止時は、季節モードが冬の場合、 全閉停止になります。
※2　運転停止時は、季節モードが中間・夏の場合、 換気停止になります。(全閉停止も選択できます。詳しくは施工工務店まで)
※3　自動運転で季節モードが夏の場合、 排気お湯採り運転中に1時間に1回、約5分間 室内排気運転になります。この機能を利用するときは、「夜間風量切り替えスイッチ」を「強」か「弱」にしてください。
※4　季節判断をする「日射のある朝方」とは、棟温が「外気温+10℃以上」になったタイミングです。
※5　上記によるお湯採り信号出力（貯湯ランプ赤点灯）状態でも集熱空気と貯湯槽内水温差が７～９℃以上ないと貯湯槽は運転しません。

手動運転の設定

手動運転を選択すると、ＯＭソーラーの運転を幅広く設定できます。
手動運転で設定できる項目は、季節モードなど全部で４項目です。

季節モードの変更

季節モードは「冬」「中間」「夏」の３種類が選択できます。暖房を必要とする季節は「冬」を、朝方などに少し冷えると感じる季節は「中間」を、終日暑いと感じる季節や夜に外気取り込みしたい季節は「夏」を選択します。

1 （自動）を押して「自動ランプ」を消灯させます。

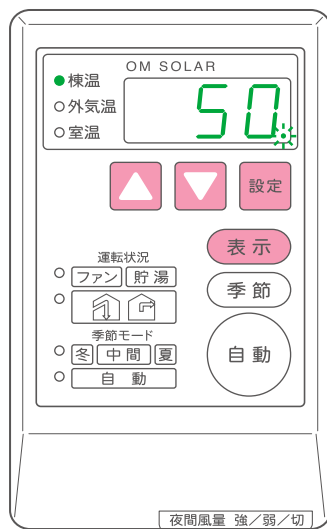
2 （季節）を押すと、「冬●(赤)」⇨「中間●(オレンジ)」⇨「夏●(緑)」の順で季節モードが切り替わります。

設定室温の確認・変更

「設定室温」は、ＯＭソーラーの運転が切り替わるときの基準となる室温です。季節モードごとに 10 ～ 35℃の範囲で設定できます。
【初期値 :「冬」「中間」「夏」ともに 23℃】

1 （表示）を押して温度ランプの「室温」を点灯させます。

2 （設定）を押すと「ドット LED」がゆっくり点滅し、設定室温を表示します。

3 設定値を変更したいときは ▲ か ▼ を押します。
「ドット LED」が速めに点滅し、変更モードになります。
▲ で高い方へ ▼ で低い方へ設定値を変更します。

4 （設定）を押すと設定値が変更され、室温表示に戻ります。

設定棟温の確認・変更

「設定棟温」は、ＯＭソーラーの運転が始まるときの基準となる棟温です。季節モードごとに 10 ～ 45℃の範囲で設定できます。
【初期値 :「冬」30℃、「中間」35℃、「夏」40℃】

1 （表示）を押して温度ランプの「棟温」を点灯させます。

2 ［設定］を押すと「ドット LED」がゆっくり点滅し、設定棟温を表示します。

3 設定値を変更したいときは ▲ か ▼ を押します。
「ドット LED」が速めに点滅し、変更モードになります。
▲ で高い方へ ▼ で低い方へ設定値を変更します。

4 ［設定］を押すと設定値が変更され、棟温表示に戻ります。

目標棟温の確認・変更

「目標棟温」は、ＯＭソーラーの運転風量の基準となる棟温です。季節モードごとに 10 ～ 70℃の範囲で設定できます。日中、棟温が目標棟温より低いときは、風量が小さくなり、棟温を目標棟温に近づけます。【初期値 :「冬」50℃、「中間」55℃、「夏」65℃】

1 （表示）を押して温度ランプの「棟温」を点灯させます。

2 ［設定］を２回押すと「ドット LED」がゆっくり点滅し、目標棟温を表示します。（1 回目の表示は設定棟温です。）

3 設定値を変更したいときは ▲ か ▼ を押します。
「ドット LED」が速めに点滅し、変更モードになります。
▲ で高い方へ ▼ で低い方へ設定値を変更します。

4 ［設定］を押すと設定値が変更され、棟温表示に戻ります。

手動運転の運転パターン

手動運転を選択したときは、下表のように運転が切り替わります。
「設定室温」「設定棟温」「目標棟温」は、季節モードごとに設定できます。

例：設定項目が初期値のときの運転パターン

運転の開始条件	冬	中間	夏(昼)	夏(夜)
運転の開始条件	棟温30℃以上(初期値) (設定棟温10℃～45℃)	棟温35℃以上(初期値) (設定棟温10℃～45℃)	棟温40℃以上(初期値) (設定棟温10℃～45℃)	・昼の運転が停止 ・棟温「室温+2℃以下」 ・外気温「室温-1℃以下」

※1 集熱運転停止時は、季節モードが冬の場合、 全閉停止になります。
※2 集熱運転停止時は、季節モードが中間・夏の場合、 換気停止になります。(全閉停止も選択できます。詳しくは施工工務店まで)
※3 上記によるお湯採り信号出力（貯湯ランプ赤点灯）状態でも集熱空気と貯湯槽内水温差が７～９℃以上ないと貯湯槽は運転しません。

手動運転の設定例

手動運転の設定例を紹介します。
設定例を参考に、季節の変化にあわせた設定を、お試しください。

例 1　寒い時期に、ＯＭソーラーによる取り込み風量を多くしたい。

季節モード	「冬」
設定室温	「23℃」
設定棟温	「25℃」
目標棟温	「30℃」

設定のポイント

設定棟温を低くすると、「集熱取り込み」になりやすくなります。
目標棟温を低くすると、「集熱取り込み」の風量が多くなります。
取り込みをしていて室内が寒く感じられるときは、設定棟温を高くしてください。

例 2　梅雨時の晴れ間に、集熱取り込み（集熱お湯採り）で床下換気したい。

季節モード	「中間」
設定室温	「28℃」
設定棟温	「35℃」
目標棟温	「35℃」

設定のポイント

季節モードが「中間」のときに設定室温を高くすると、室温が設定室温以上になるまで「集熱取り込み（集熱お湯採り）」します。
目標棟温を低くすると、「集熱取り込み」の風量が多くなります。
取り込みをしていて室内が暑く感じられるときは、設定室温を低くしてください。

例 3　夏の夜の外気取り込みをあまり利用したくない。

季節モード	「夏」
設定室温	「30℃」
設定棟温	「40℃」
目標棟温	「65℃」

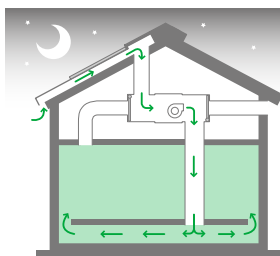
設定のポイント

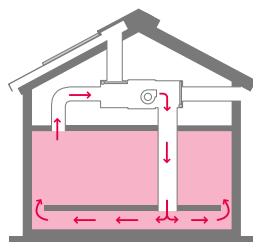
季節モードが「夏」のときに設定室温を高くすると、「外気取り込み」になりにくくなります。
夏の夜の「外気取り込み」をまったく利用しないときは、季節モードを「中間」にするか、「夜間風量切り替えスイッチ」を「切」にしてください。

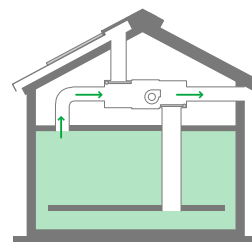
夜間風量切り替えスイッチの設定

「夜間風量切り替えスイッチ」は、集熱していないときに運転する風量を「強・弱・切」で設定できます。

夜間風量切り替えスイッチが利用できる運転

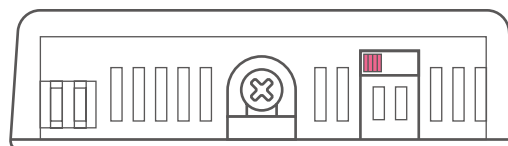
夏の夜の外気取り込み

夏の夜、室内より外の方が涼しくなったら（室温 -1℃以下）外気を取り込みます。

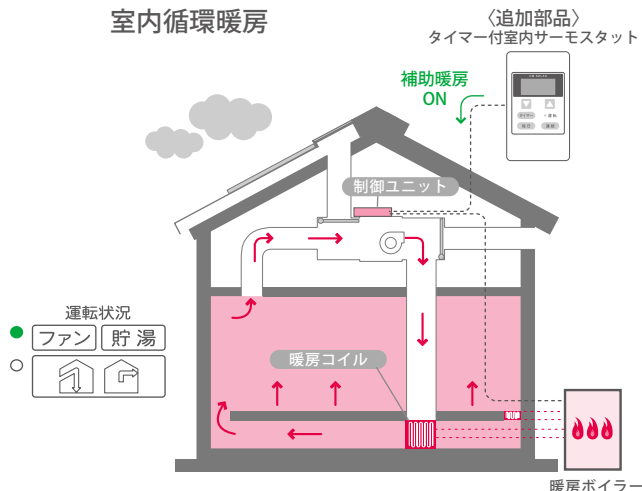
室内循環

室内の空気を循環させます。
（詳しくは➡ P18）

室内排気・夏の自動換気

室内の空気を排気します。
（詳しくは➡ P18・P11）

風量の目安

スイッチ	風量
強	90～70%
弱	50～35%
切	停止

ハンドリングボックスの音が大きくて気になるときは「弱」にしてください。また、「切」にすると「夜間風量切り替えスイッチ」が利用できる運転は働きません。

補助暖房（オプション）

OM ソーラーと連動する補助暖房を設置しているときは、下記の２つのパターンで運転します。

室内循環暖房

集熱していないとき（夜間など）に補助暖房が入ると、「室内循環」で運転します。運転中は暖房ボイラーが作動して暖房コイルに温水を送り、循環空気を温めます。

※循環風量はリモコンの「夜間風量切り替えスイッチ（強・弱・切）」で設定します。

※「夜間風量切り替えスイッチ」は風量の多い「強」が暖房能力も高くなります。騒音が気にならない限り「強」に設定してください。

※「夜間風量切り替えスイッチ」を「切」にしたときは、補助暖房が入らなくなります。

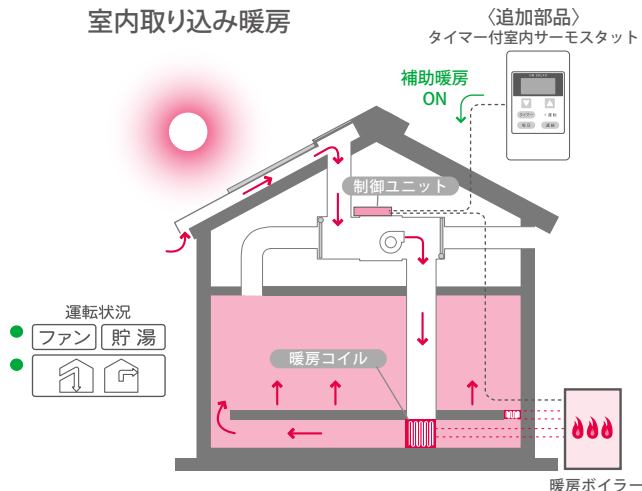
室内取り込み暖房

〈追加部品〉
タイマー付室内サーモスタット

補助暖房
ON

制御ユニット

運転状況

ファン　貯 湯

暖房コイル

暖房ボイラー

集熱取り込み暖房

日中（集熱取り込みまたは集熱お湯採り時）に補助暖房が入ったときは、「集熱取り込み」しながら補助暖房を運転します。運転中は暖房ボイラーが作動して暖房コイルに温水を送り、取り込んだ空気をさらに温めます。

※集熱取り込みの風量は、目標棟温（➡ P13）を基準に制御されます。暖房に必要な風量として不足するときがあります。

※集熱取り込みの風量を多くしたいときは、手動運転を選択し、目標棟温を低めに設定してください。
【設定例】
「手動運転」、季節モード「冬」、設定室温「25℃」、設定棟温「30℃」、目標棟温「30℃」

※「夜間風量切り替えスイッチ」を「切」にしたときは、補助暖房が入らなくなります。

※タイマー付室内サーモスタットの操作については別途、操作説明書をご覧ください。
※リモコンとタイマー付室内サーモスタットが表示する室温は、誤差により 3 ～ 4℃ずれるときがあります。

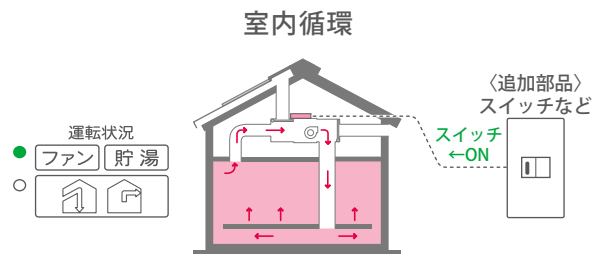
追加機能（オプション）

オプションとして追加機能用のスイッチや換気扇を設置しているときは、それぞれ下記のパターンで運転します。

室内循環

運転状況　ファン　貯湯

〈追加部品〉スイッチなど

スイッチ←ON

室内循環

専用のスイッチなどを入れると、ハンドリングボックスが「室内循環」で運転します。
「室内循環」は、集熱していないときに利用できます。

用途例

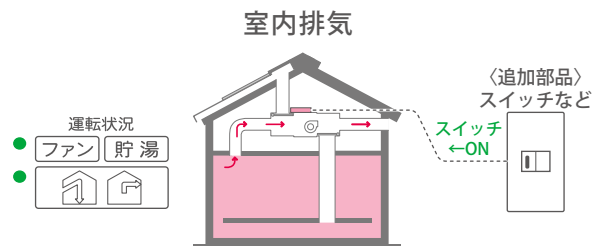
- 補助暖房（➡ P17）
- 暖炉などで高いところの暖気を循環
- 少数の冷暖房機の空気を家全体に回す

❗ 油分・水蒸気・溶剤などハンドリングボックスに吸い込ませないでください。故障の原因となります。

室内排気

運転状況　ファン　貯湯

〈追加部品〉スイッチなど

スイッチ←ON

室内排気

専用のスイッチなどを入れると、ハンドリングボックスが「室内排気」で運転します。
「室内排気」は、集熱していないときか、「室内循環」していないときに利用できます。

用途例

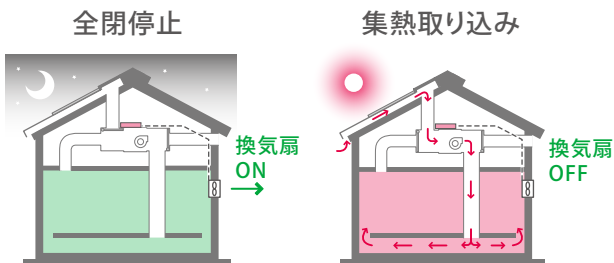
- 夏の夜の「外気取り込み」に代えて「室内排気」で運転
（夏夜に棟温が下がりにくいとき、日中に不在が多く熱気がこもるときなど）

❗ 油分・水蒸気・溶剤などハンドリングボックスに吸い込ませないでください。故障の原因となります。

全閉停止

換気扇ON

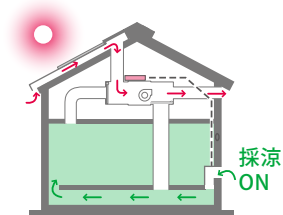
集熱取り込み

換気扇OFF

別付け換気装置と連動運転

ハンドリングボックスで換気していないとき（停止・湯採り排気・室内循環）に、別付け換気装置（換気扇等）が運転します。

用途例

- 24 時間換気装置との連動

※　この機能と、採涼換気ファン（DOMA くーる）の連動運転オプションを併用することはできません。

採涼換気ファン（DOMA くーる）と連動運転

採涼換気ファン（DOMA くーる）は、夏の排気運転中に建物北側の涼しい空気を土間に取り込み、さらに土間床で空気の温度を下げて室内に取り込む装置です。自然の涼風を得るだけでなく、同時に換気も実現します。ハンドリングが夏モードのときのみ稼動します。

用途例

・日中の涼風取り入れ（夏期）

※採涼換気ファン（DOMA くーる）側の設定で

・運転停止

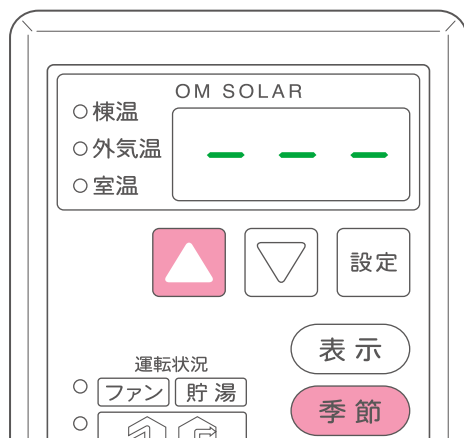
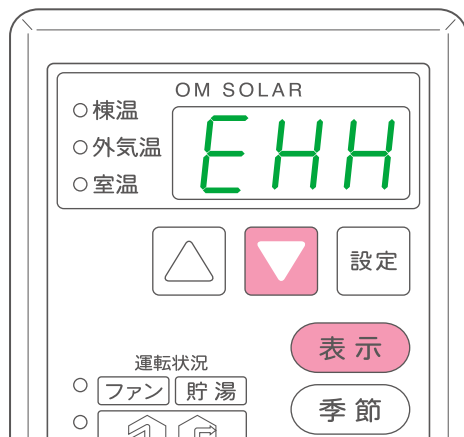
・夏の夜の外気取り込み

時にも採涼換気ファンを連動運転させることができます。

詳しい設定につきましては、施工工務店にご相談ください。

※　この機能と、別付け換気装置の連動運転オプションを併用することはできません。

リセット

リモコンの表示に異常を感じたときは、「リセット」を試してください。
「リセット」には２通りの方法があります。

異常表示のリセット

異常表示がリモコンの温度表示パネルに表示されたときは、異常表示のリセットをします。異常の原因が解決されていれば、異常表示が消えます。

1 ▼ ＋ (表示) を同時に３秒間押します。
異常表示が消え、通常の表示に戻ります。

※異常の原因が解決されてないときは、異常表示のリセットをしても異常表示が継続されます。

オールリセット

「オールリセット」は工場出荷時の設定に戻すときや、リモコンの動きに異常を感じたときに使います。

1 ▲ ＋ (季節) を同時に３秒間押します。
「オールリセット」されると、「温度表示パネル」で「−−−」を表示し、工場出荷時の状態で運転を再開します。

※「オールリセット」により運転モードは自動運転「中間」になります。
全ての設定は初期値になり、最高・最低温度もクリアされます。

※「リセット」しても、続けて異常表示されるときは、施工工務店までご連絡ください。

異常表示について

リモコンの温度表示パネルに、下記の異常表示が出るときがあります。
異常表示が出たときは、表示の内容に応じて対処してください。

異常表示	判定条件	対処方法
E01 通信異常	制御ユニットとリモコンの 通信異常	「異常表示のリセット」を試してください。 改善されないときは「オールリセット」をしてください。 「オールリセット」をしても改善されないときは、施工工務店に連絡してください。
E02 棟温センサー断線	外気温0℃以上 ＆棟温－15℃未満（1分継続）	
E03 棟温センサーショート	ファン運転5分経過 ＆棟温145℃以上（1分継続）	
E04 室温センサー断線	外気温0℃以上 ＆室温－15℃未満（1分継続）	
E05 室温センサーショート	室温60℃以上（1分継続）	
E06 外気温センサー断線	ファン運転＆棟温60℃以上 ＆外気温－15℃以下（15分継続）	
E07 外気温センサーショート	外気温60℃以上（1分継続）	
EHH 棟温異常	ファン運転＆棟温110℃以上（10分継続） 棟温80℃以下で運転は自動復帰	ハンドリングの風量の低下が考えられます。 ハンドリングの「お湯採りコイル」が「ほこり」で目詰りしていないか確かめましょう。 目安として建築後7～15年以上のときは、ファンモーターの寿命も考えられます。
EFF ファンモーター異常	ファンモーターの高温or過負荷	
PPP 試運転中	制御ユニットのディップスイッチで試運転ON	もし点検以外で「PPP」が表示されているときは、施工工務店に連絡をして「試運転スイッチ」を「OFF」にしてもらいましょう。

※予備温度センサーに関する異常表示はありません。

故障かな？と思ったら

症状	ここを確認してください	関連ページ
自動運転のとき、季節判断がおかしい	自動運転の季節判断は、晴天日における外気温の変動を想定してプログラムされています。曇天日や雨天時には、自動の季節判断が実際の季節とずれることがあります。季節モードを変更したいときは、手動運転にして季節モードを変更してください。	9
自動運転（冬・中間）のとき、室内が暑すぎる	設定室温レベルが高いかもしれません。設定室温レベルを確認してください。設定室温レベルを低くすれば、より低い室温で「排気お湯採り」に切り替わります。ただし、設定室温レベルを下げると、蓄熱コンクリートの温まり具合が少なくなります。	10
自動運転（冬・中間）のとき、室内が寒い	設定室温レベルが低いかもしれません。設定室温レベルを確認してください。設定室温レベルを高くすれば、より高い室温まで室内に空気を取り込みます。	10
自動運転（夏）のとき、夜になっても「外気取り込み」で動き始めない	まだ、棟温と外気温が高いかもしれません。夏の夜の「外気取り込み」の開始条件〈棟温が「室温＋2℃」より低いこと〉また、〈外気温が「室温－1℃」より低いこと〉がそろっているか確認してください。	11
	設定室温レベルが高くなっていませんか。例えば、「±0＝室温23℃以下」で運転停止、「＋5＝室温33℃以下」で運転停止、になります。	10
	「夜間風量切り替えスイッチ」が「切」になっていませんか。運転したいときは「強・弱」に切り替えます。	16
集熱していないのにファン／貯湯ランプが点灯し、ハンドリングが動いている	季節モード「冬・中間」＆OM換気ランプ「消灯」であれば、「室内循環（暖房）」で運転しています。強制的に止めたいときは、リモコンの「夜間風量切り替えスイッチ」を「切」にしてください。	7,16
	季節モード「夏」＆OM換気ランプ「点灯」であれば、「夏の夜の外気取り込み」で運転しています。強制的に止めたいときは、リモコンの「夜間風量切り替えスイッチ」を「切」にしてください。	7,16
ハンドリングが止まっているのにOM換気ランプが点灯している	季節モード「中間・夏」では、「換気停止（室内から排気に空気が抜けるダンパー状態）」により、自然換気や室内の熱気抜きを促す設定になっています。「全閉停止」にしたいときは、リモコン内部のディップスイッチの操作で変更できます。	7
お湯採りができない	季節モード「冬・中間」で、設定室温レベル（自動運転）または設定室温（手動運転）が高くなっていませんか。	10,12
	OM側でお湯採り信号を送っている（ファン／貯湯ランプ赤点灯）状態でも貯湯槽側で集熱空気と貯湯槽内の水の温度差が7～9℃以上ないと、貯湯槽は運転しません。	7
お湯採りが止まらない	自動運転のときは、比較的お湯採りをするように設定されています。設定室温レベル（自動運転）または設定室温（手動運転）の内容を確認してください。どうしてもお湯採りを止めたいときは、冬であれば「手動運転／冬」を選択して設定室温を高めに設定してください。凍結の心配がない季節であれば、貯湯槽のコンセントを抜いてください。	10,12
日射がなくなるとリモコンの表示が消える	商用電源（AC100V）が切れている状態です。制御ユニットのコンセントが差し込まれているか、または、ブレーカーが切れていないかを確認してください。商用電源（AC100V）がきていて、症状が出ているときは、制御ユニット内部の電源装置の故障が考えられます。施工工務店に問い合わせてください。参考として、雷の影響で電源装置が壊れる可能性があります。	5

基本仕様

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">型式</th><th colspan="2">小型</th><th colspan="2">中型</th></tr>
<tr><th>OMD-05C</th><th>OMD-05N</th><th>OMD-12C</th><th>OMD-12N</th></tr>
<tr><td colspan="2">熱交換コイル</td><td>あり</td><td>なし</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">寸法</td><td colspan="2">450W × 450H × 989L</td><td colspan="2">500W × 500H × 1,198L</td></tr>
<tr><td colspan="2">重量</td><td>28kg</td><td>25kg</td><td>43kg</td><td>39kg</td></tr>
<tr><td colspan="2">最高風量</td><td colspan="2">8m³/min</td><td colspan="2">12m³/min</td></tr>
<tr><td colspan="2">外装</td><td colspan="4">ガルバリウム鋼板　1.0t</td></tr>
<tr><td colspan="2">保温</td><td colspan="4">硬質発泡断熱材　15mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">電源</td><td colspan="4">専用太陽電池もしくは商用電源（AC100V）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">消費電力</td><td>太陽電池のみの時</td><td colspan="2">70W</td><td colspan="2">140W</td></tr>
<tr><td>商用電力のみの時</td><td colspan="2">25W</td><td colspan="2">60W</td></tr>
<tr><td rowspan="2">使用条件</td><td>環境</td><td colspan="4">場所：屋内　周囲温度：-10～45℃、相対湿度：90%以下（結露なきこと）</td></tr>
<tr><td>流体</td><td colspan="4">集熱空気温度：90℃以下　熱交換コイル熱媒：不凍液（-10℃～80℃）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">リモコン</td><td>寸法</td><td colspan="4">70W × 120L × 25H</td></tr>
<tr><td>電源</td><td colspan="4">DC12V（制御ユニットから供給）</td></tr>
<tr><td>消費電力</td><td colspan="4">2W</td></tr>
<tr><td rowspan="7">太陽電池</td><td>種類</td><td colspan="4">多結晶系太陽電池</td></tr>
<tr><td>寸法</td><td colspan="4">451W × 1,316L × 50H</td></tr>
<tr><td>重量</td><td colspan="4">10.0kg</td></tr>
<tr><td>最大出力</td><td colspan="4">70W</td></tr>
<tr><td>開放電圧</td><td colspan="4">24.6V</td></tr>
<tr><td>短絡電流</td><td colspan="4">3.90A</td></tr>
<tr><td>材質</td><td colspan="4">枠：アルミ（黒色）、表面：強化ガラス</td></tr>
</table>

※本仕様は、改善のため、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。